

# 発達障害のある子どものキャリア 発達支援に向けた家庭教育プログラム

○清野 絵(国立障害者リハビリテーションセンター 室長)  
榎本 容子(国立特別支援教育総合研究所)

## 背景: 発達障害者の就労問題

- ・発達障害のある人の就労選択肢は、「一般雇用」と「障害者雇用」
- ・特性に応じた配慮を受けられる場合、障害者雇用での安定就労が期待できる
- ・実態:一般雇用での挫折を経て障害者雇用に至るケースが多い

# キャリア発達支援の課題

- ・特別支援教育体制は整備されてきた一方で、キャリア発達支援は発展途上
- ・「職業準備性」や「自己理解」が不十分なままキャリア選択に至ることも
- ・家族との連携に関する課題も指摘されている
  - ・家庭での生活面支援の不足
  - ・親の障害者雇用に対する抵抗感

# 家庭教育の現状と課題

- ・ペアレントトレーニングは普及しているものの、就労支援に向けては十分ではない。
- ・今後求められること：
  - ① 家庭・学校・放課後等デイサービスの連携
  - ② 学齢期からのキャリア発達支援
  - ③ 障害特性の体験的・段階的理解

# 目的

- ・発達障害のある子どもの「就労」を見据えつつ、教育と福祉の連携のもとで、学齢期から家庭で実践できる

**キャリア発達支援プログラム(教材)を開発すること**

- ・本発表では、教材開発の全体を整理し、成果物と今後の課題を報告

# 方 法

1. ヒアリングデータ(企業／支援機関15件)の再分析
2. 文献レビュー(家庭教育・連携関連)
3. 保護者への聞き取り(個別事例:1名)
4. 多職種意見交換(保護者・当事者・小学校教諭・就労支援者)
5. 既存指標整理・取組内容表の作成
6. 保護者2名による試行的評価
7. 地域ニーズ調査 → 改良
8. リーフレット教材開発
9. WEB質問紙調査(保護者213名)
10. 実践的協働の展望整理

# 倫理審査

- ・調査の実施に当たっては、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所倫理審査部会で承認を得た。

# 結果：開発した教材の概要

■研究を通じて得られた知見を踏まえ、冊子教材(A4・74頁)(図1)と、その導入用としてのリーフレット教材(A4・8頁)(図2)を作成した。



冊子教材(図1)



リーフレット教材(図2)

# 冊子のねらい

- 家庭での取り組みとして**生活習慣の形成**や**お手伝い**をテーマにした学びを含む
- その理由は、就職や職場定着に役立つ取組の1つとして、**家庭との連携**、家庭での**お手伝い**を通した**役割遂行経験**と**丁寧な作業経験**があること
- 普段の**家庭生活の工夫**が、将来の就労・自立に向けた、子どもの思いや行動のきっかけや、育成につながることをお伝えし、そのための取り組みのヒントを提供する

# 冊子のコンセプト

- 就労の土台となるのは、「職業生活を支える**生活面の力**」。これを段階的かつ自然に育成できるのが家庭。家庭は、**家族との対話**を通じて、「**自分らしい生き方について考えるきっかけ**」を提供できる
- 専門的な知識を持たない保護者でも、子どもの特性に寄り添いながら、**日々の家庭生活でのかかわりを工夫したり、より丁寧に取り組んだり**することで、子どもの得意なことを中心として、就労に向けた基本的な力を**少しづつ、無理のない形で育んでいく**ことができるよう、その**ヒント**を提供。

- 全ての内容を一度にあるは全て取り組もうとするのではない
- **本人の興味・関心に合ったものや、得意なもの・できるもの**  
から、無理なく取り組めそうなものを1つ(多くても2つ)  
選び実践することを想定
- 取組を通じて、本人が**達成感**を感じられるようにすること、  
そのために、「ありがとう」「がんばったね」等、**肯定的な言葉**  
**がけ**ができ、笑顔につながる内容を選ぶことが大切



# 冊子の対象

- 働くことができる可能性を持つつも、障害特性による生きづらさを抱えている小学校低学年から高校生までの子どもの保護者(母親、父親等)のうち、**就労・自立**に向けて家庭での取り組みについて情報を得たい方
- ただし、保護者と子どもの**状況が安定**していること
- ただし、無理のない取り組みに向け、冊子は、**放課後等デイサービスの職員や学校の教員等、支援者を通じて保護者に情報提供**いただくことを想定

# 冊子の内容:学習テーマ

「自分らしく役割を果たしていく上で必要となる力」をテーマとした学び	「自分を見つめる力を育てる」 「人とかかわる力を育てる」 「計画を立てて取り組む」
「生活習慣の形成」をテーマとした学び	「生活で自立を意識する」 「時間管理を行う」
「お手伝い」をテーマとした学び	「簡単な調理をする」「掃除をする」 「部屋の片付け管理をする」「洗濯をする」「買い物をする」「ごみの分別リサイクルをする」

## ■ポイント項目

上記の内容について、就労・自立に向けて役立つ力を可視化して、子どもの強みとして育てたい力としてポイント項目を提示

# 冊子の内容：冊子の構成

## 「キャリア発達支援」に関する基礎知識

- 発達障害のある人が就労時に直面しやすい困りごととその対応
- 将来を見据えて意識したい「キャリア教育」「職業準備性ピラミッド」の視点

## 「日常生活場面で」でのキャリア発達支援のヒント

- 自分を見つめる力を育てる
  - 人とかかわる力を育てる
  - 時間管理をする
- 計画を立てて取り組む
  - 生活で自立を意識する

## 「お手伝い場面」でのキャリア発達支援のヒント

- 簡単な調理をする
  - 掃除をする
  - 洗濯をする
- 部屋の片付け・管理をする
  - 買い物をする
  - ごみの分別・リサイクルをする

## 先輩保護者から

- 支援者と保護者へのメッセージ
  - 事例から考える取り組みのポイント
- 家庭内アルバイトの工夫
  - 先輩保護者のメッセージ
- 自立を支える支援ツール活用のヒント

テーマ

## 「お手伝い場面」でのキャリア発達支援のヒント

## 買い物をする



ポイント項目

## 自立に向けた力を育む工夫例は？

これは一例です。できそだなと思うものだけ選んで、取り組んでみましょう！

## ⑥ 「買い物の場所」

## Point 「他者とかかわる基礎的な力」「会話」「質問」

- 店舗での行動について教えることが必要です。  
例えば、どのように商品を選ぶか、他のお客様への配慮、店員さんに質問する方法など、基本的なマナーを普段の買い物の中で学んでいきましょう。
- 段階を踏んで経験を重ねることで、買い物のスキルを育てていくことができます。最初は、家族とよく行く慣れた場所で買い物を始めましょう。  
☞ 店員さんと会話しておくことで、いざという時に役立ちます。  
☞ 慣れてきたら、年齢に応じて新しい買い物先を選ぶことを考えましょう。



ヒント

## 発達段階を意識して取り組めることはある？

子どもの状況に応じて  
段階的に取り組みましょう！

## ステップ1

- ・一緒に買い物に出かけ、お金の支払い方等を知る
- ・実際にリストを持たせ、必要なものを探させる経験を通じて、物の名前や価格を覚え、基本的な数の感覚も養う
- ・おやつを自分で選び、自分でお金を支払う
- ・一緒に買い物に出かけ、新鮮な食品の選び方、買い物袋への食品の入れ方等を知る
- ・簡単な買い物メモに沿って、必要な買い物を行う  
☞ 分からないことや迷うことは店員さんに尋ねるようにする  
☞ 店内で目的のものが購入できないときにはどうするか、シミュレーションしておき、パニックにさせないようにする



## ヒント

## もっと取り組みを広げたい場合は？

子どもが興味をもったら、こんな取り組みもできるかも？

買い物代行の手伝いやアルバイトを経験する

- ・祖父母や身近な人の買い物を手伝ったり、スーパー やネット販売で注文のあった品を在庫商品から集めるアルバイトをすることで、実践的な金銭感覚や責任感を育むよい機会となります。また、社会との関わりを深め、コミュニケーション能力も向上します。



体験談

「先日、子どもが祖父母の買い物を手伝いました。一つだけ間違って祖母が頼んだ野菜とは違うものを買ってしまいました。それでも、祖父母は一人でお使いできたことをとても喜んでくれて、子どもも次回はもっと気をつけよう学んだようです。小さな失敗も、成長の一歩になったと感じています。」



## 学校との連携に向けて

学校でも、子どもが将来について考える機会が多くあります。自立に向けた過程は、希望に満ちた将来に向けて学齢期を共に歩む大切な時期です。このため、様々な場面での体験が必要です。学校生活を充実させるためには、親と学校が情報を交換し合いながら、子どもの成長を見守っていくことが大切です。親としても、積極的に学校と連携し、子どもが豊かな経験を積めるようサポートしましょう。



## 放課後等デイサービスとの連携に向けて

放デイで、就労して社会人になった先輩から話を聞ける機会があるとよいですね。起床から余暇の過ごし方、金銭や体調管理、困っていることなどを話してもらうことで、子どもたちは将来の自立を具体的にイメージしやすくなります。放デイは、家庭に次いで子どもと関わり、アドバイスを得られる大切な場です。家庭とも連携しながら、子どもが社会とつながり、自立に向けて成長できるサポートをしていくことが重要です。

# リーフレットの活用

- 家庭教育プログラムの導入段階での利用を想定
- 冊子やリーフレットのねらいと、冊子の概要を紹介
- 冊子は支援者の利用を想定しているが、リーフレットは主に**保護者への冊子の紹介**を目的としている

**先輩保護者からのメッセージ**



**①気長にひとつずつ積み上げていくことが大切！**

私たち保護者は、わが子の将来をどのように考えたらいいのだろうかと迷いながら、毎日の家庭生活を送っています。

私は、親の会主催の講演会で、5歳の子をもつ保護者から「子どもが社会に出るために今から何をすればよいのでしょうか?」と質問を受けたことがあります。

「焦らないでいい」と感じました。しかし、「今から少しずつできることはある。しかも、親子で無理なく楽しくできることがある」ということを伝えたいという気持ちもありました。

それは、どのような時代においても、保護者は、「わが子の専門家」ともいえる存在であると考えるからです。保護者は、わが子と共に育つ中で、わが子の特性や、得意・不得意等への理解を深めていくことができます。そして、学校生活の中ではなかなか学びにくい事柄について、毎日の家庭生活の中で、丁寧に教えたり、親子でじっくりと対話をしたりしながら、その成長を見守り、支え続けることができます。ライフステージを横断して伴走することができるは保護者の特権です。

「お手伝い」をはじめとした、家庭における様々な「体験的な学び」の中で、子どもの「興味・関心、得意なこと」を見つけたり、子どもが「できた！」という経験」や「人の役に立ちうれしい！」と思える経験」を、無理のない形で段階的に積んでいくといいですね。

新垣 和子

# リーフレットへの保護者の感想

## ■リーフレットについての質問紙調査の自由記述による評価

●対象:発達障害のある子どもの家庭教育に

取り組んだ経験を持つ保護者213名

## ■結果

肯定的な意見:137件

子どもに達成感や意欲を持たせる手立てが詳細に  
書かれており、非常に参考になる

否定的な意見のみ:11件…教材活用の難しさや不安



今後の課題:導入時の支援体制の工夫

その他の意見:65件…実践例についての報告

# 冊子・リーフレットの特徴

- 保護者の要望に対応し、保護者の実践や経験をふまえ、保護者と研究者が協働し、段階的な研究プロセスを経て作成
- 教育及び福祉との連携を前提とした具体的なプログラム
- 保護者や放課後等デイサービスの支援者が、日々の生活の中で無理なく子どもの就労に向けた力を育むための実践的な指針を提供しており、発達障害のある子どもの将来的な社会的自立を促進に役立つ可能性がある



# まとめ

発達障害のある子どもの就労を見据え、教育や福祉との連携のもと、学齢期から家庭で取り組むための家庭教育プログラムとして冊子とリーフレットを開発した。今後は、本教材が学校や福祉の支援のもと、導入時の負担に配慮しながら、家庭で無理なく活用されることが期待される。

# 参考文献

- 1) 障害者職業総合センター(2017)障害者の就業状況等に関する調査研究, 調査研究報告書, 137.
- 2) 榎本 容子, 清野 絵, 木口恵美子(2018)大学キャリアセンターの発達障害学生に対する就労支援上の困り感とは?—質問紙調査の自由記述及びインタビュー調査結果の分析から—, 福祉社会開発研究, 10, pp.33-46.
- 3) 新堀和子, 大蔵佐智子, 榎本容子, 清野絵(2023)家庭と連携した発達障害のある子どものキャリア発達支援の課題と今後の展望:家庭向けキャリア教育の手引きの作成過程から. 第31回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集, pp.160-161.